

看護女子大生の子宮頸がん予防行動に関する実態調査 第1報

監物万里香¹⁾、杉本海晴¹⁾、塚本康子¹⁾

1) 新潟医療福祉大学看護学科

【背景・目的】子宮頸がんによるわが国の死者数は年間約3500例と推定され、2000年以降では罹患者・死亡者ともに20～30歳代に多く、特に20歳代で増加傾向にあり、極めて重要な課題となっている。¹⁾子宮頸がんにはヒトパピローマウイルス（HPV）感染が関与していることから、ワクチン接種が世界的に進められ、わが国でも2009年に子宮頸がん予防ワクチンが認可されたが、認可直後に副反応の問題が報告され、現在予防ワクチンは推奨されていない。²⁾もう一つの予防行動である子宮がん検診の受診率が2割程度と先進国の中でも最低レベルであり³⁾、子宮頸がん予防啓発は喫緊の課題となっている。本研究により、これから看護師になろうとしている女子大学生が子宮頸がん予防についてどの程度の知識を持ち、どのような認識をしているのか実態を明らかにすることを目的とした。また、調査により予防行動啓発が期待できる。

【方法】1) 研究対象：医療系の看護女子大学生1年生から4年生女子学生を対象とした。2) 調査方法と内容：先行研究を参考に研究者独自の調査票を作成した。子宮頸がん、予防ワクチン、子宮頸がん検診に関する知識、子宮頸がん予防ワクチン接種の有無とその理由、子宮頸がん健診受診の有無とその理由、ワクチン接種・未接種の思いで構成した。3) 研究方法：無記名自記式質問紙を用いた量的研究。学年ごととワクチン接種した群と接種しなかった群で単純集計、クロス集計し、検定した。4) 倫理的配慮：新潟医療福祉大学倫理委員会に承認を受けたのち、対象者に研究者が質問紙を直接配布し、回答後直接回収した。実施した研究者が協力依頼と説明を口頭で行い、アンケートの提出と同意書の署名により同意を得た。

【結果】対象者297名に配布し回答は292名（回収率98.3%）であった。対象者の人数と平均年齢を表1に示す。

表1 対象者の人数と平均年齢

学年	人数	無回答	平均年齢
1年生	80人	2人	18.4歳
2年生	63人	3人	19.4歳
3年生	80人	1人	20.5歳
4年生	69人	0人	21.5歳
全学年	292人	6人	20.0歳

回答者全体の平均年齢は20.0歳であった。1学年の平均年齢は18.4歳、4学年の平均年齢は21.5歳であった。

表2 各学年の正答率と接種率と受診率

学年	正答率	接種率	受診率
1年生	23.4%	88.8%	3.8%
2年生	36.9%	93.7%	4.8%
3年生	44.1%	88.8%	13.8%
4年生	43.3%	73.9%	17.4%
全学年	36.7%	86.3%	9.9%

学年ごとの子宮頸がん・子宮頸がん予防ワクチン・子宮頸がん検診に関する設問の正答率と子宮

頸がん予防ワクチン接種率と子宮頸がん検診受診率を表2に示す。設問正答率は全学年が36.7%、1年生が23.4%、4年生が43.3%であった。子宮頸がん予防ワクチン接種率は全学年が86.3%、1年生が88.8%、4年生が73.9%であった。子宮頸がん健診受診率は全学年が9.9%、1年生が3.8%、4年生が17.4%であった。

【考察】設問正答率を見ると、値はほぼ学年と比例している。看護学を学ぶ学生は子宮頸がんやワクチンに関する講義を受講し、看護師に近づくにつれ知識を獲得していることがうかがえる。子宮頸がん予防ワクチン接種率は、永井らが報告した一般大学学生の接種率9.6%⁴⁾という結果と比べ、看護女子大生は全体で86.3%と極めて高い。また、子宮頸がん検診受診率でも、一般大学学生の受診率7.5%⁴⁾と比べ、看護女子大生は全体で9.9%と高かった。本研究対象の看護学生は設問の正答率は高いとはいえないが、子宮頸がん予防ワクチン接種率・子宮頸がん検診受診率ともに予防行動の率は高く、予防行動への意識が高いといえた。また、子宮頸がん検診の対象年齢が20歳からであること、日本における受診率が2割程度²⁾であることを踏まえて見ると極めて高い結果と考えた。看護女子大生は看護学を通し知識を獲得することで予防行動へのきっかけやモチベーションとなっていると考えられた。

【結論】1. 子宮頸がんとその予防行動に関する設問正答率は36.7%と低かった。2. 一般大学生と比べると本研究の看護女子大生の子宮頸がん予防ワクチン接種率は86.3%と極めて高かった。3. 一般大学生と比較し、本研究の看護女子大生の子宮頸がん検診受診率は9.9%と高かった。

【文献】

- 1) 今野良：子宮頸がん予防 HPV ワクチンの副反応・有害事象，日産婦医会報，10，2013.
- 2) 児玉龍彦：病原微生物の除去でがんはなくなるか(3)－利害関係の不透明なキャンペーンが不信感を生んだ子宮頸がんワクチン問題－，医学のあゆみ，252(13)：1309-1313，2015.
- 3) 今野良：PV ワクチンとは－子宮頸がんの予防効果，思春期学，28：131-139，2010.
- 4) 永井真由美ら：子宮頸がんについてのアンケート調査，CAMPUS HEALTH，50(2)：119-124，2013.